

「（仮称）小川にぎわい広場 原案」の説明

これまでの取組

小川駅西口地区市街地再開発事業では、敷地の北西部分に、約 1,000 平方メートルの「（仮称）小川にぎわい広場」を整備予定です。市ではこれまで、ワークショップ（平成 31 年 1 月 中央・小川デザインカフェ）、アンケート（平成 31 年 2～3 月）、オープンハウス（令和 2 年 10 月 30 日、11 月 1 日）などで、広場についての市民意見を聴取する機会を設け、「思い思いにゆっくり過ごせる」「自由度の高い」「飲食も可能な」「イベントが開催できる」など、様々なご意見をいただきました。

コンセプト

「小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画」では、全体的なコンセプトとして、「回遊や滞在による、にぎわいの創出を目指す」ことを掲げています。

このたび提示する「（仮称）小川にぎわい広場 原案」は、これまでに市民の皆様からいただいた、広場についての様々なご意見を踏まえ、

「憩い（日常）とにぎわい（イベント時等）のある空間」を目指し、

さらには、

- ・ 日常の何気ないにぎわいを生み出し、小川らしい風景を育てる広場
- ・ 単なる空間としての「スペース」ではなく、人々の活動の舞台となり、空間や街への思い入れや結びつきを強化する居場所＝「プレイス」をつくる

といった理想を目指して作成しました。

「（仮称）小川にぎわい広場 原案」の概要

開放感のあるオープンスペース

- ・ 並木の下で憩う人々に緑陰をもたらす
- ・ イベント時（マルシェやお祭りなど）には仮設テントやキッチンカーを配置できる
- ・ 舗装は地域の短冊形地割りを踏襲したデザイン
- ・ 車両の乗り入れに対応した耐重圧かつ透水性舗装とし機能面も考慮した舗装材

イベント時にはステージにもなるデッキテラス（縁台、ベンチ）

- ・ 多様な使われ方を想定し、安全かつ造形としても楽しめるようにさまざまな高さや形状
→ 縁台として座る、寝転ぶ、イベント開催時にはステージとして使用、子どもたちの遊び場…

座れる場所

- ・ 縁台に向かって座れるようにベンチを設置のほか、憩いのスペースとしてベンチは多く配置
- ・ 縁台の前には、そのまま座れるような広場（例えば、人工芝による緑の広場）

みどり

- ・ 新たにできる広場に、潤いのある緑地帯を創出
- ・ 広場の東側にある立体駐車場の圧迫感を軽減する手厚い緑
- ・ 武蔵野の森の植生になった樹種を中心に、あたかも昔からこの地に根付いていたかのような風景
- ・ 植栽の中に飛石を設けて、緑と触れ合いながら植栽の中を歩けるようにする